

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	令和2年度 第1回川西市介護保険運営協議会		
事務局(担当課)	福祉部 介護保険課		
開催日時	令和2年8月5日(水) 書面開催		
開催場所			
出席者	委員	大塚 保信、小田 憲三、上農 哲朗、遠藤 佳樹、橋本 潤、 北村 俊雄、細見 幸己、岩井 健、江見 輝男、有田 洋子、 吉川 泰光、高田 憲二、田中 公宏、市場 大輔、毛利 洋子、 白石 美智子	
	その他		
	事務局		
傍聴の可否		傍聴者数	
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第	1. 報告事項 低所得者に対する介護保険料の軽減強化について 2. 議決事項 部会の設置について 3. 協議事項 川西市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画の 策定について		
会議結果	別紙のとおり		

令和2年度第1回川西市介護保険運営協議会 書面開催の結果について

1. 議決事項「部会の設置について」

(1) 議決結果

全員賛成（15名） ※会長は表決に参加しません。

(2) ご意見

- 地域包括ケアシステムの構築に向けて、「地域だけでは解決できない課題や、市域に共通する課題等について協議し、協議体に参画する主体同士が連携し、地域づくりや資源開発等に関する協議を行ったり、市の政策形成につなげたりする役割が求められる」ことから、部会の設置に賛成する。
- 提案の趣旨を理解する。

2. 協議事項「川西市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画の策定について」

(1) 全般的なご意見

- 高齢化が進み一人暮らし高齢者が益々増加傾向にあり、より一層日常介護支援が重要視され生活支援体制整備部会の方針、指針を具体的に提示した事業計画書の策定を望む。
- アンケート結果報告書について、自分の回答と照らしあわせ拝見した。「資料3」を読ませて頂く中で「地域共生社会の実現」の言葉が多く見られ、具体的にはどのような事が必要なのか、ニーズ調査、実態調査の結果を参考に色々考えさせられた。益々の高齢者増に対応出来る様な事業計画を期待する。
- （計画に位置づけるべき内容は）多岐にわたるが、理解可能なように適切に述べられているように感じる。

(2) サービス基盤整備に関するご意見

- 市立川西病院の跡地活用について、市は地域包括ケアシステムの先駆的な計画を考えているようだが、介護施設の整備計画として、第8期介護保険事業計画にどのように記載するのか議論が必要だと思われる。

(3) 地域包括ケアシステムの推進や地域共生社会の実現に関するご意見

- 在宅での看取りを可能にする医療と介護、その他担い手の確保（ボランティア等）が必要ではないか。
- 地域共生社会の実現や介護予防・地域づくりの推進を図るためには、施策や事業の計画的な推進が大切である。2040年を見据え、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし続けることができるよう、第2層協議体における「住民主体」、「我が事、丸ごと」のまちづくりを今から計画的にこつこつと進めていけるよう、生活支援コーディネーターの増員を図るなどの生活支援体制整備事業の充実を強く望む。
- 資料4「「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」及び「在宅介護実態調査」の調査結果につ

いて(概要)」の6ページでは、「住んでいる地域ですっと暮らし続けるために必要なサービス」として、「外出の際の移動支援サービス」が最も高くなっており、「移動支援サービスを利用したい時」としては、「通院」・「買物」が高くなっている。

一方、数値は低い、「地域のカフェやサロンへ移動するため」は、地域包括ケアシステムの構築に向けて重要な項目だと考えるため、計画に反映してほしい。

- 資料5「アンケート結果報告書」の20ページでは、外出の際の移動手段について要支援認定等の有無に関わらず「徒歩」が最も多くなっているのは意外だった。

また、114ページでは、住んでいる地域ですっと暮らし続けるために必要なサービスについて「外出の際の移動支援サービス」が最も高くなっているが、移動手段の確保について今後の展開を示してほしい。

- 「高齢者の地域や介護現場での活躍推進」に取り組むとされているが、労働力不足の解消や年金財源の確保のため、定年延長や高齢者雇用が促進されており、高齢者自身も長い老後の生活を考えたときに、元気なうちは働き続け、余暇は好きなことをしたいという意識がある。こうした中では、地域活動(ボランティア活動)の人材が枯渇することは明白であり、特に、高齢化が著しい地域については、待ったなしの状況である。従って、世代交代を円滑に進めるためには、有償ボランティアの制度化が一つの方法だと考える。
- 地域で活動する人材を確保するうえで、特に若い人の参加を期待するのであれば、ポイント制度は有用ではないかと考える。健幸マイレージのノウハウもあることから、早期の実現が可能ではないか。
- 地域包括ケアシステムを推進していくうえで、生活支援コーディネーターの役割は重要である。現在、第2層生活支援コーディネーターは1人のみだが、各中学校区に配置する必要があるのではないかと考える。

(4) 介護予防や健康づくりに関するご意見

- 「資料3」の2ページでは、「通いの場の拡充等による介護予防の推進」に取り組むとされているが、高齢者の徒歩圏内(概ね15分~20分)に通いの場が必要である。各地域で公民館や自治会館等があるが、数が少ない。空き家問題が課題となっている中で、リフォームの補助制度があるが、さらに使いやすい制度に拡充する必要がある。また、自治会館等の既存施設について、バリアフリー化を進める補助制度も必要ではないか。

また、「いきいき百歳体操」を実施しているグループに対して、会場使用料、DVDプレイヤー、血圧計等活動に必要な費用等への支援が必要ではないか。

(5) 認知症施策に関するご意見

- 対応の難しい認知症の方を受け入れてくれる施設を増やしてもらいたい。
- 認知症施策に関しては、キャラバンメイトの地域における活動に対する支援が必要である。認知症サポーター養成講座に関しては、地域包括支援センターの指導と支援のもと実施されているが、キャラバンメイト活動に必要な教材等(図書購入費やコピー代等)は、予算化されていない状況にある。また、全市的な取り組みが必要なことに対する情報提供や支援を行うため、キャラバンメイトの事務局的な機能を設置することが必要だと考える。

(6) 介護人材確保に関するご意見

- 介護現場の人材確保について、業務改善、環境整備、待遇・報酬改善が必要ではないか。

(7) 災害や感染症対策に関するご意見

- 災害発生時や感染症対策について、体制整備は急務である。

(8) その他のご意見

- 計画策定のスケジュールは、非常にタイトになっている。新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない状況下ではあるが、今後具体的な計画を詰めていく中で、書面だけの議論では厳しいと考えることから、最終段階だけでも、感染予防対策を講じたうえで会議を開催することはできないか。
- 全体的に、非常にわかりやすいアンケート結果であった。